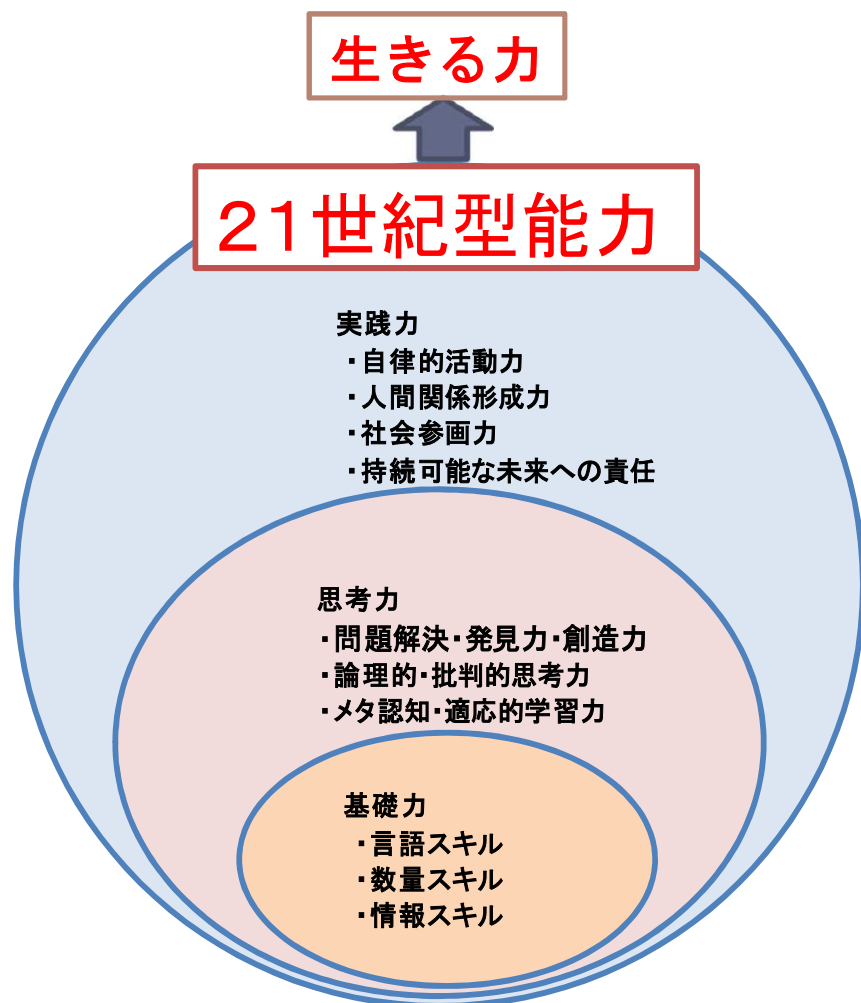


# 求められる資質・能力の枠組み試案

21世紀型能力：「生きる力」としての知・徳・体を構成する資質・能力から、教科・領域横断的に学習することが求められる能力を資質・能力として抽出し、これまで日本の学校教育が培ってきた資質・能力を踏まえつつ、それらを「基礎」「思考」「実践」の観点で再構成した日本型資質・能力の枠組みである。



①思考力を中核とし、それを支える②基礎力と、使い方を方向づける③実践力の三層構造

- 1) 実践力が21世紀型能力、引いては生きる力に繋がることを示すために、円の最上に位置づけ
- 2) 3つの資質・能力を分離・段階的に捉えず、重層的に捉えるため、3つの円を重ねて表示（例：基礎力は思考力の支えとなるが、思考力育成に伴って基礎力が育成されることもある）
- 3) いかなる授業でも3つの資質・能力を意識して行うために、3つの円を重ねて表示

各能力の下位要素については、さらに検討を進めている

## 教育課程の基準における資質・能力の現行の示し方 資質・能力を育てる学習過程をどう示しているか

総則・・・「見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動」  
「問題解決的な学習」, 「学習課題や活動を選択」  
→総則に示された学習活動が、各教科等の『解説』や『評価規準』に反映

各教科等・・・「〈A(事項)〉について、〈B(活動)〉を通して(学習し)、〈C(資質や能力)〉  
を育てる(～できるようにする)」という形式が複数の教科で採用されている。  
(ABCの順序や表記の仕方は異なる)。

『評価規準』・・・評価の観点の例示として、「見通しをもち筋道を立てて考え表現する」  
「自分の課題に合った方法を選ぶ」などの活動を示すことによって、学習過程が示唆されている。

### 各教科における学習過程の示し方

国語	「学習過程の明確化」が今回の改訂の趣旨の一つ。各能力別に小～高校までの系統表を作成し、これに従って授業を構想できるように配置している。
生活	具体的な活動や体験を通して気づいたことを基に考えさせるため、見付ける、比べる、たとえるなどの多様な学習活動を工夫する(学習指導要領「内容の取扱い」)
社会	『評価規準』で、設定例として、「学習問題」を考え、「予想し」、必要な「情報を集めて読み取り」、「調べたことを「比較・関連・総合し」、事象の「特色を理解する」、「適切に表現する」、などの学習過程を示す。
体育	『評価規準』で学習過程を例示(自分のめあてを持って活動を工夫し、自己評価する、など)。

# 教育課程の基準における資質・能力の今後の示し方 資質・能力目標を位置づけ生かすための構造(案)

生きる力

確かな学力

資質・能力（汎用的能力，高次スキル，メタ認知，学習観）

資質・能力になりうる内容，活動

教科内容（重要概念，ものの見方，個別的知識・技能）

小学校理科(仮)      小学校算数(仮)

エネルギー      数と計算

粒子      量と測定

生命...      数量関係...

パターン      パターン

構造と機能...      数感覚...

電流...      割合...



学習活動（教師の手立て，子どものすべ・スキル・技能）

小学校理科(仮)      小学校算数(仮)

言語活動に従事する

見通しを立てる...

比較する      比較する

関連づける...      関連づける...

条件を制御する...      論証する...

# 3頁(上記)補足説明

国立教育政策研究所(2014)「教育課程の編成に関する基礎的研究 報告書7 資質や能力の包括的育成に向けた教育課程の基準の原理」pp.269-270

- 現在の社会では、「何を知っているか」だけではなく、それに基づき「何ができるのか＝実生活において知識や技能を活用して問題が解決できること」の重要性が増している。また、世界の教育・学習研究の進展から、子供たちが他者と関わりながら、自分で考え、理解し、次に学びたいことを見つけるなど、資質・能力を重視した教育においての方が、教科等の内容の学習も進む可能性が見えてきた。
- 教科等の内容と、その学び方(学習活動・過程)の関係の検討から得られた示唆
  - 教科等の概念の深い理解や本質の把握が「知識・技能の活用」につながる
  - 協働的・協調的な学習も含め、内容を学ぶ際の学び方が重要である
  - その学び方の振り返り(メタ認知等)から「個人として自立し他者と協働しながら価値を創造する力」が育成できる場合がある
- 上記の目的の実現のためにできること
  - 各教科等の教育目標・内容について、「教科等の本質に関わるもの」と、「教科等に固有の知識・個別スキルに関わるもの」とに精選・構造化する
  - 複数の教科等に共通するものとそうでないものとを精選・構造化する
  - 「児童生徒は[知識・技能X]を[学習活動Y]を通して学ぶことで[資質・能力Z]を身に付ける」という構造で、教育目標を記述する
  - 教育現場で上記の構造を意識して授業を行う「統合的・文脈的アプローチ」を推奨・支援する。ただし、現場の多様性を尊重する